

# 社協で働く方々（コーディネーター）の ウェルビーイング向上策

2024年12月7日（土）

発表：ソーシャルアクションアカデミー 6 チーム  
（チームメンバー）浅山、石山、磯崎、太田、小櫃、枚田、  
山田、若林、渡辺

## <本日のアジェンダ>

- ・チームメンバー紹介
- ・テーマ選定から活動アクションに至った経緯
- ・活動内容報告 & ワークショップを通じてわかったこと
  - ①「この仕事やっててよかったエピソード」ワークショップ
- ・新たな活動 ～エピソードⅡ～
  - ②コーディネーターインタビューとパターンランゲージ（川崎市作成）の相関性
  - ③ボランティア活動に対するアンケート分析
- ・おわりに ～感謝と御礼～

# チームメンバー紹介

# メンバー紹介・SAAに参加した動機

## 【凡例】

- ① SAAに参加した理由
- ② SAAに参加して新しく発見した事

- 様々な社会経験や趣味・特技を持つメンバーが、コーディネーターの皆さんを支援したいという気持ちから一つのチームを結成しました。

## 浅山 (ITエンジニア)

- ① 所属している研究会で紹介があったため
- ② 多様な社会課題は身近にあり、そこに携わっている人によって社会が成り立っている

## 石山 (コンサル会社バックオフィス)

- ① 通常のプロボノとは違う経験ができそうと感じたため
- ② 社会課題は遠い誰かのものではなく身近にあるもの

## 磯崎 (ウェブ編集)

- ① 「人ごと」だった社会課題に向き合って、出来ることを探して行動してみたい
- ② 熱い心を持った人はたくさんいる！

## 小櫃 (エネルギー会社の管理部門)

- ① プロボノをやっている時から気になっていて
- ② 社協という存在、活動内容そのもの

## 太田 (人事コンサルタント)

- ① 自分の住む地域に今よりも愛着を持ちたいと感じたため
- ② 社会を良くするために行動している方が周りにたくさんいること

## 枚田 (食品関連の会社員)

- ① 前回プロボノに参加した際に、自分の力不足を実感したため
- ② 社会課題は人と人が結びつくことで解決できる問題がたくさんあるということ

## 山田 (営業・マーケティング)

- ① 社会課題解決に携わりたいため / 普段の仕事で関わらない方々とチームを組み、知見を増やしたい
- ② 小さな個人だからこそ大きな問題に挑めるということ

## 若林 (メンタルヘルス系のコンサル)

- ① 普段出会わない人と協働することのおもしろさを経験したいと思いました
- ② 社会課題への取り組みも、楽しくなければ続かないし、いいパフォーマンスも生まれない

## 渡辺 (区役所の指定管理の会社員)

- ① プロボノのスケールアップ（可視化／課題解決の向上）
- ② CSWはワクチンである。地域福祉の集団免疫として貢献している

# テーマ選定から活動アクションに 至った経緯

# チームのSAA活動アクションの流れ

**GOAL**  
**Well-being向上**

アンケート（SAA参加者を中心に実施）

- ✓ ボランティアに対する意識の確認
- ✓ 潜在ニーズの掘り起こし

アンケート（ワークショップ参加者向け）

- ✓ ワークショップ好評
- ✓ 社会貢献意欲のある参加者をどう取り込んでいくか？

N1エピソード

- ✓ 小国さんからのアドバイス
- ✓ ワークショップの開催
- ✓ 意見交換

**START**  
**渋谷区社協の方々との  
出会い**

都内社協訪問

- ✓ インタビュー実施
- ✓ N1エピソード確認

パターンランゲージ分析

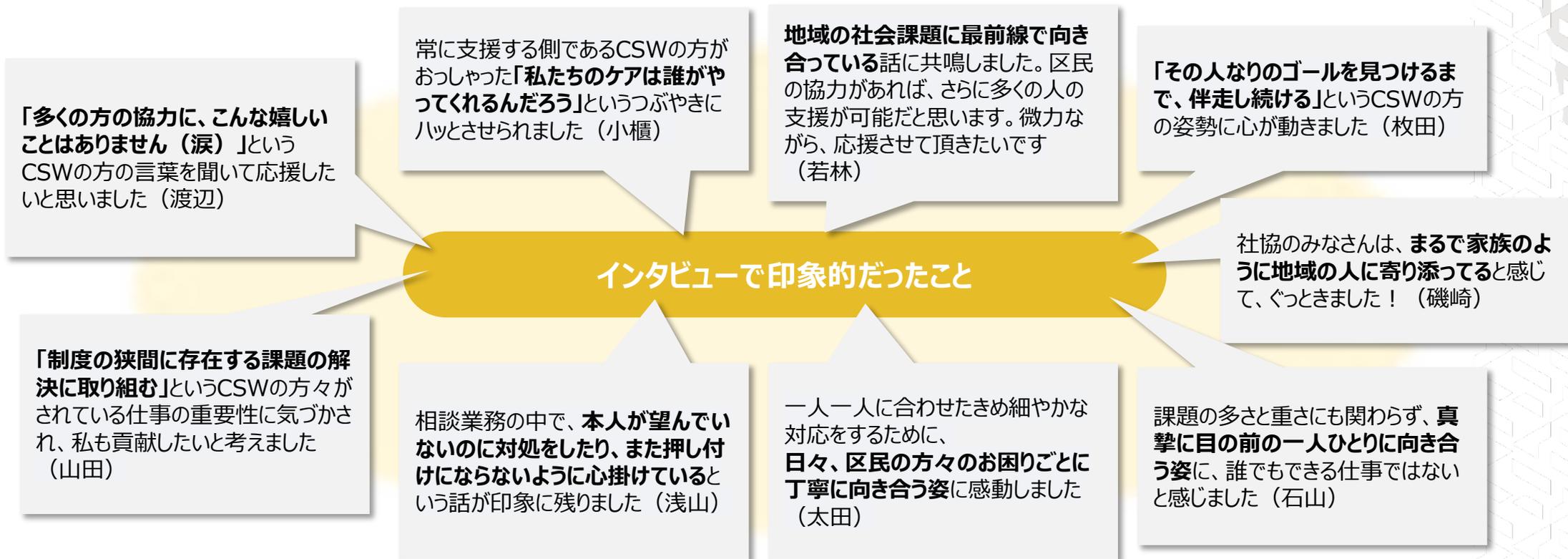
- ✓ インタビュー内容とパターンランゲージとの相関性

テキストマイニング分析

- ✓ インタビュー内容のAIによる分析

# 渋谷区社協の方々へのインタビューから生まれたメンバーの思い

- SAAプログラムで渋谷区社協の4名の地域福祉コーディネーター（CSW）の方々へインタビューする機会をいただきました。そのなかで、渋谷区地域課題やCSWの方々の取り組みや抱えている課題を直接伺いました。



**CSWの方々が、少人数で難しい社会課題に真摯に向き合う姿に感銘を受け、地域社会を支える側の方々にスポットを当てたテーマを選択することをチームメンバー間で議論、共有。**

# チームの実現したい未来

<p>インタビューから見てきた課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コーディネーターの方々が日々の業務に忙殺され、自分達の存在価値を改めて考える時間がとれない。</li> <li>● 地域の人々が身近で活動しているコーディネーターの存在や活動内容を、認識・理解できていない。</li> </ul>
<p>考えられる影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 時間的、精神的にも余裕がない中、場合によっては離職やバーンアウトの可能性もあり。</li> <li>● 多くの人に地域参画を促す働きかけの影響力が限られてしまう。</li> </ul>
<p>チームの仮説</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SAAのメンバーがコーディネーターの活動内容を知り、皆様の応援団になりたいと思ったように、多くの地域の方々も、コーディネーターの活動内容を知れば「応援したい（困ったときには頼りたい）」という気持ちになるのではないかな？</li> <li>● また、そうした内容を（他地区の状況含め）共有することでコーディネーター自身の矜持、ひいてはリテンションにも繋がっていくのではないかな？</li> </ul>
<p>解決に向けた2つのアクション</p>	<p><b>GOAL : 社協で働く方々のウェルビーイング向上</b></p> <p>① SAAプログラムで小国士朗講師から「N1エピソード」のアドバイスを得る。ウェルビーイングな状態を創出する手法として「この仕事やってよかったエピソード」のワークショップ開催を決定。開催主旨 &amp; 時期に賛同いただいた2地区の社協の方々と<b>ワークショップを実施</b>。</p> <p>② 多くのコーディネーターの方々の「この仕事やってよかったエピソード」を集め、彼ら彼女らのウェルビーイングの源泉を探るため、<b>都内各地の社協（=11地区、延べ20名のコーディネーターの方々）へのインタビューも並行して実施</b>。</p>

# 活動内容報告 & ワークショップを通じてわかったこと

# チームのSAA活動アクションの流れ

GOAL  
**Well-being向上**

アンケート（SAA参加者を中心に実施）

- ✓ ボランティアに対する意識の確認
- ✓ 潜在ニーズの掘り起こし

## アンケート（ワークショップ参加者向け）

- ✓ **ワークショップ好評**
- ✓ **社会貢献意欲のある参加者をどう取り込んでいくか？**

## N1エピソード

- ✓ **小国さんからのアドバイス**
- ✓ **ワークショップの開催**
- ✓ **意見交換**

START  
渋谷区社協の方々との  
出会い

都内社協訪問

- ✓ インタビュー実施
- ✓ N1エピソード確認

パターンランゲージ分析

- ✓ インタビュー内容とパターンランゲージとの相関性

テキストマイニング分析

- ✓ インタビュー内容のAIによる分析

# ①「この仕事やっててよかったエピソード」ワークショップ

## 活動概要

- 目的 業務の中で一番印象に残っている瞬間を皆様の間で出し合い、そのエピソードを対外的に発信することで、コーディネーターとその活動への理解度や共感度を上げ、住みやすい地域環境づくりに貢献する
- 実施日 2024年10月26日（土） 15:00～17:00
- 参加者 都内の社会福祉協議会 2団体 計3名
- 「この仕事やってよかったエピソード」とは。。。  
ひとりひとりが持っている大切にしたい、印象深いエピソード  
これまでの業務の中で一番印象に残っている瞬間を振り返り味わい、  
そして大事にしたいエピソードを仲間にシェアし、他者のリアクション・客観的コメントを通して、改めてご自身の業務の魅力を再発見しましょう

# 当日の進行資料より抜粋

## 「この仕事やってよかったエピソード」 ワークショップ

2024年10月26日（土）15:00～17:00

主催：ソーシャルアクションアカデミー6チーム  
(チームメンバー) 浅山、石山、磯崎、太田、小樫、枚田、  
山田、若林、渡辺

1

### <本日のスケジュール>

- 15:00～15:05 本日のスケジュール説明
- 15:05～15:10 ご挨拶&本ワークショップのゴール目標
- 15:10～15:20 SAAメンバー自己紹介
- 15:20～15:30 アイスブレイク  
参加者自己紹介
- 15:30～15:35 「この仕事やってよかったエピソード」趣旨説明
- 15:35～15:45 個人ワーク (適宜休憩)
- 15:45～16:25 エピソード共有&質問・意見交換
- 16:25～16:50 今後のスケジュール&アウトプット意見交換
- 16:50～17:00 クロージング
  - ①感想共有
  - ②アンケート回答

2

お手元の以下資料に記入をお願い致します。



20

### <参加者披露エピソードタイトル>

- ・SAA 浅山さん 「ありがとうと言われた瞬間に感じた達成感」
- ・板橋 太田さん 「地域を知るためにはまず地域行事に出てこい」
- ・SAA 渡辺さん 「将棋ボランティアの対戦姿勢」
- ・府中 花岡さん 「力があるのに埋もれてしまっていた人」
- ・SAA 若林さん 「会社の小さな変革の積み重ね」
- ・板橋 小林さん 「怒ってきた人は笑って帰せ」

24

# 当日のワークショップの様子①



# 当日のワークショップの様子②



# この仕事やってよかったエピソード

地域を知るためには、まず地域業務に出てこい

【エピソードの内容】

- いつ： 十数年前
- 誰と一緒にいるとき： 担当地域の町会長
- どこで： 地域座談会の場
- エピソードを思い出す頻度： 地域に出て新しい人と話すとき

● エピソードの詳細：

18地域ある中で自分の担当地域を任せられ、最初の挨拶の場ともいえる座談会で、今後の活動方針を説明した。大勢の前で説明する経験はこれが初めてだったので緊張していたが、説明が終わった後に、強面の町会長さんから座談会をする意味は何なのかという言葉が投げかけられた。数日後に電話があり、週末に来てほしいところがあると呼び出された。向かった先は、町会長十数名と婦人部の方がいらっしゃる場（ゴーヤフェスティバル）だった。自分では内心、怒られると思って向かった場だったが、町会長の挨拶の場や、その後の参加者団らんの席でも、責められることはなく、寧ろよくやってくれているというお褒めの言葉をもらい、美味しいゴーヤ料理やお酒をいただいた。あれ？怒られないのかな？と半信半疑でいると、町会長がやってきて、「色々な説明をするのも分かるんだけど、地域ってこういうものなんだよ」というお言葉をかけてくださった。これ以来、「まずとにかく行く、地域の中に入って話すこと」がとても大事と実感し、実践している。

力があるのに埋もれてしまっていた人

【エピソードの内容】

- いつ： 5-6年前（着任後初期）
- 誰と一緒にいるとき： 支援していた方と石材屋さん
- どこで： 都内霊園
- エピソードを思い出す頻度： 年に数回（コーディネーターの目的を見失いかけるとき）

● エピソードの詳細：

中学卒業後にひきこもりになった方（Aさん）のエピソード。出会ったときは、Closed Questionには答えられるが、Open Questionには答えられない状態だった。色々な試行錯誤をして、Aさんの答え（意見）を引き出す関わり方を探した。Aさんとの関係性がある程度構築できた段階で、農園で草取りをする求人を見つけ、そこから社会復帰をスタートした。草刈りの勤務状況を見て、一人でも外出できそうだと感じたので、次に石材店の落ち葉掃除を提案した。石材店での清掃業務を続けていると、Aさんの仕事ぶりを見た石材店の方が、石材店では墓石の掃除需要が一気に高まるシーズンがあるので、是非Aさんにその仕事を頼みたい、採用できそうなので是非来てほしいと言ってくれた。このエピソードに代表されるように、力があるのに、きっかけがなくて埋もれている方が、地域にはたくさんいるはずだと感じている。このような方を見つけたいという意識で日々働いている。

# 参加者のアンケート結果より

2. あなたの所属する社会福祉協議会を管轄している行政機関（市区町村）は、地域福祉コーディネーターもしくは生活支援コーディネーターの活動のことをどれくらい知っていると思いますか？



全然知られていない

よく知られている

5

4. このワークショップで、地域福祉コーディネーターもしくは生活支援コーディネーターの仕事のやりがいや魅力を再発見できましたか？



全く再発見できなかった

非常に再発見できた

7

6. ワークショップ全体に対する満足度はどの程度でしたか？



全く満足していない

非常に満足している

9

8. このワークショップの結果を今後の業務にどう活かそうですか？



- 自身のエピソードにいただいたコメントで気づくこと、他の参加者の方のエピソードを聴いて感じるものがたくさんありました。職場に戻ってこのようなワークショップをやりたいと思いました
- 自部署のメンバーにて、価値観を共有、向上するために、活用できるかと思いました。時間が限られるため、短縮バージョンへのアレンジは必要ですが、ミーティングに取り入れる提案を検討できればと思いました。
- 業務を進める上で自分が大切にしなければならないことを再認識することができました。その上で、必要な広報周知啓発に力を入れ、独りよがりにならないよう気をつけなければならないと思いました。エピソードの共有によって、他のコーディネーターも同様のことで壁にぶつかっていたり、自分なりに壁を壊したりしていることに気づけたのは非常に良い学びになりました。

11

## ワークショップを通じてわかったこと、今後の活動に向けて

- 今回のワークショップでは前述の通り、「この仕事やってよかったエピソード」を軸に、複数地区のコーディネーターどうしの意見交換、情報共有も含めての開催となりました。
- 日程的な問題もあり、限られた参加者間での開催となりましたが、以下にワークショップを通じてわかったこと、今後の活動に向けてのまとめを記載させていただきます。

- (コーディネーターにとっては) とにかく地域の中に入って話すことが大事。
- 地域の中にはたくさんの埋もれている力があり、そうしたものを発掘していくのもコーディネーターの大切な仕事。
- (狭間に陥りやすい地域課題の) どことどこを繋ぐのがいいのかを考えるには、幅広いネットワーク、知識や経験が必要になる。
- 参加者からの本ワークショップに対する満足度は高く、職場で同様のワークショップをしたい、内容をコンパクトにしてミーティングで活用したい等、メンバー間の価値観共有 & 向上に有用、とのコメントをいただいた。

### 【まとめ】

日々忙しく働いているコーディネーターの方々に、日常業務とは異なるメンバーと対話する場（＝ワークショップ）をつくることで、新たな気づきや共感が得られ、新しいモチベーションが生まれる。本企画を社協内のミーティング・研修等で（部分的にでも）取り入れていただくことで、社協内の価値観共有 &モチベーション向上に繋がっていくのでは、と考える。

# 新たな活動 ～エピソードⅡ～

# 我々チームのSAA活動アクションの流れ

GOAL  
**Well-being向上**

アンケート（SAA参加者を中心に実施）

- ✓ ボランティアに対する意識の確認
- ✓ 潜在ニーズの掘り起こし

アンケート（ワークショップ参加者向け）

- ✓ ワークショップ好評
- ✓ 社会貢献意欲のある参加者をどう取り込んでいくか？

N1エピソード

- ✓ 小国さんからのアドバイス
- ✓ ワークショップの開催
- ✓ 意見交換

START  
渋谷区社協の方々との  
出会い

パターンランゲージ分析

- ✓ インタビュー内容とパターンランゲージとの相関性

テキストマイニング分析

- ✓ インタビュー内容のAIによる分析

都内社協訪問

- ✓ インタビュー実施
- ✓ N1エピソード確認

## ②コーディネーターインタビューと パターンランゲージ（川崎市作成）の相関性

## 活動概要

- 目的 コーディネーター（地域福祉、生活支援）の「この仕事やってよかった」エピソードを、複数人からインタビューすることで、彼ら彼女らの**ウェルビーイングの源泉を探る**
- 実施期間 2024年9月9日～2024年11月8日
- 対象団体 **計11団体**（都内社会福祉協議会:10区及び1市）
- コーディネーター **計20名**  
(地域福祉(CSW):9名、地域福祉(CSW)兼生活支援:5名、生活支援:1名、課長／係長:5名)
- 資格（名刺記） 社会福祉士:10名、社会福祉士/精神保健福祉士:1名、社会福祉士/精神保健福祉士/保育士:1名、介護福祉士:1名
- インタビュー時間 **計 15時間**





# 我々チームのSAA活動アクションの流れ

GOAL

## Well-being向上

### アンケート (SAA参加者を中心に実施)

- ✓ ボランティアに対する意識の確認
- ✓ 潜在ニーズの掘り起こし

アンケート (ワークショップ参加者向け)

- ✓ ワorkshop好評
- ✓ 社会貢献意欲のある参加者をどう取り込んでいくか?

N1エピソード

- ✓ 小国さんからのアドバイス
- ✓ ワorkshopの開催
- ✓ 意見交換

START

渋谷区社協の方々との  
出会い

都内社協訪問

- ✓ インタビュー実施
- ✓ N1エピソード確認

パターンランゲージ分析

- ✓ インタビュー内容とパターンランゲージとの相関性

テキストマイニング分析

- ✓ インタビュー内容のAIによる分析

## ③ ボランティア活動に対するアンケート分析

## 活動概要

- 目的 ワークショップ実施時の参加者との意見交換の中で、**社会貢献意欲のある地域住民とより効率的に接点を持つには、どのようなアプローチが有効か**、との議論になり、我々アカデミー含めたサービスグラント登録者を中心にアンケート調査を実施。
- 実施期間 2024年11月16日～2024年11月23日
- 調査対象 SAA参加者含むサービスグラント登録者、及び当チームメンバーの同僚、家族他、**計173名**
- 調査内容
  - ・属性
  - ・SAAについて
  - ・社会福祉協議会の認知について
  - ・プロボノ・ボランティア経験について

# アンケート結果資料より抜粋①

## アンケート結果とSAAからの提案（仮称）

1

## もくじ

アンケート実施方法	P.3～
アンケート回答者の傾向	P.4～
アンケートの分析軸	P.8～
軸ごとの分析結果	P.9～
アンケートから読み取れること	P.17～

2

## アンケート実施方法

調査方法	Workplaceでの告知・友人知人への回答依頼 *Workplace：サービスグラントが採用しているコミュニケーションプラットフォーム
調査期間	2024/11/16～11/23（1週間）
アンケート構成	SAA・社協・ボランティアの3構成
設問数	22問
回答時間（平均）	11分
位置づけ	社会福祉協議会などの社会的な団体が、 社会貢献意欲のある区民とより効率的に接点を持つためのアプローチ方法の調査
回答者数	173名

3

## アンケートの分析軸

#	観点	詳細説明
1	居住年数×ボランティア経験×居住地 (都内・それ以外・ALL)	✓ 居住期間が長いほど、地域参加の機会や地域への貢献意識が高まる可能性があるかを検証した
2	年代×興味がある分野	✓ 年代ごとに関心を持つテーマが差異が見られるかを検証した
3	年代×ボランティア経験×ボランティアに 参加するときのネック（阻害要因）	✓ 年代や過去のボランティア経験の有無によって、ボランティアに参加を検討する際にハードルとなる要素が異なるかを検証した
4	年代×N1	✓ ボランティアの新規参加を増加させるためのアピールポイントを探る目的で、プロボ活動やボランティア経験者の印象に残ったエピソードをカテゴリズ・分析した
5	年代×ボランティアに参加してみたいと思う条件	✓ 参加してみたいと思う条件（自由回答）は、年代ごとに違いがあるかを検証した
6	年代×ボランティア経験×ボランティアに ついて真にする頻度	✓ ボランティアについて真にする頻度（5段階回答）とボランティア経験の有無と合わせて、ボランティア経験がある方がボランティアについて真にすることが多いかを検証した
7	年代×社協を知ったきっかけ	✓ 新たな相談者やボランティアにリーチするための流入経路の参考とすることを目的とし、社協を知っていると回答した人を対象に、社協を知ったきっかけとなる媒体を検証した
8	年代×社協の活動イメージ	✓ 社協が発信している内容や活動がどのように住民には受け取られているのか、年代によって身近に感じるテーマが違うか、の2点を検証した

8

# アンケート結果資料より抜粋②

## 2. 年代×興味がある分野

カテゴリ	興味がある分野	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
1. 地域社会・防災	まちづくり	100%	82%	62%	50%	50%	61%
	地域防災	0%	0%	3%	0%	0%	1%
	地域安全	0%	8%	8%	17%	19%	11%
2. 教育・子ども	教育・研究	33%	46%	46%	30%	38%	39%
	子ども育成	25%	38%	49%	37%	56%	43%
	保健・医療・福祉	25%	38%	38%	50%	50%	42%
3. 健康・福祉	健康	0%	0%	0%	0%	6%	1%
	ウェルビーイング	0%	0%	0%	0%	6%	1%
	障がい者に関する「社会の障壁」について（保険・医療・福祉の認識ではないと考えている）	0%	0%	0%	0%	6%	1%
4. 国際協力・災害支援	国際協力	17%	15%	24%	10%	6%	16%
	災害支援	33%	23%	19%	30%	13%	23%
	自然保護	8%	8%	19%	33%	13%	19%
5. 環境・自然保護	清掃	0%	8%	0%	0%	0%	1%
	農業、食料	0%	0%	0%	3%	0%	1%
	道徳・倫理	0%	0%	0%	3%	0%	1%
6. 倫理・人権	人権	8%	23%	11%	20%	19%	16%
	芸術・文化	50%	31%	22%	17%	13%	23%
	社会課題全般	0%	0%	0%	0%	6%	1%

結果から言えること

- 「まちづくり」は全体で最も関心が高く、特に20代以下では全員が関心を示し、他の年代でも半数以上が関心を寄せている。
- 「教育・研究」は30代と40代の子育て世代で関心が高く、「子ども育成」では60代以上の過半数が興味を持っている。
- 「保健・医療・福祉」は50代と60代以上で半数以上が支持を集めており、他の年代に比べて高い傾向が見られる。

## 4. 年代×N1

- 「あなたが、プロボノ活動もしくはボランティア活動に参加されて、得られた達成感について、具体的なエピソードを教えてください」という設問の回答を下記のカテゴリ分類で分類分けを行い、年代別で比較を実施

カテゴリ	回答者数	条件・キーワード	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
1. 得られた気づき・学び	12	気づき、学び、視野、理解、洞察、広がる、新しい視点、アップデート、知識、発見、意識、価値観、改善された、新しい発見	25%	23%	24%	23%	25%	24%
2. 人との関わり	13	人、関わり、交流、対話、仲間、新しいつながり、他者との接触、話す機会、業務では出会えない、協力、絆、信頼、チーム、他者との協力、グループ	8%	31%	30%	17%	25%	23%
3. 実現した成果	37	成果、達成感、成功、貢献、実現、目標達成、プロジェクト完了、満足感、結果、ゴール、アウトプット、結果を出す、成果を実感	33%	23%	5%	13%	25%	16%
4. 自己成長・キャリアへの発展	30	成長、キャリア、スキルアップ、自己、経験、能力向上、進歩、学びがある、ポテンシャル、挑戦、自己開発、未来、成長機会、個人的な成長、スキル向上、自分の成長	8%	0%	14%	3%	0%	6%
5. 社会への貢献	16	社会、支援、貢献、地域、役立つ、社会貢献、価値を生む、地域社会、役割、世の中、インパクト、奉仕、社会のため、公益	8%	15%	14%	23%	6%	15%
6. 活動の特色・課題	30	活動、特性、特徴、独自性、形式、仕組み、ユニーク、幅広、内容、課題、難しい、改善、契約、不満、困難、方法、解決、工夫、プロセス、やり方、実行計画	8%	0%	8%	3%	0%	5%
7. その他	16	上記のどのカテゴリにも該当しない回答	8%	8%	5%	17%	19%	11%

結果から言えること

- 「得られた気づき・学び」は全体で最も多く、全年代ではほぼ均一に見られ、大きな偏りがない。
- 「人との関わり」は、30代と40代で他の年代よりも高い傾向が見られる。
- 「実現した成果」は、20代以下で他の年代よりも高い割合を示している。

## 8. 年代×社協の活動イメージ

- 社協が発信している内容や活動がどのように住民には受け取られているのか、年代によって身近に感じるテーマが違うのか、2点を確認するために年代と社協へのイメージの軸で検証

カテゴリ	回答者数	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	全体
高齢者支援	19	79%	89%	67%	62%	65%	69%
障がい者支援	18	68%	83%	49%	51%	70%	58%
子ども子育て支援	51	47%	56%	53%	48%	65%	52%
生活困窮者支援	61	37%	56%	61%	44%	65%	52%
地域づくり活動	23	63%	56%	55%	52%	65%	56%
健康増進活動	172	16%	28%	16%	15%	30%	19%
災害時支援・防災活動	19	11%	17%	20%	15%	43%	20%
相談業務	61	42%	44%	49%	33%	61%	44%
見守り活動	23	37%	50%	33%	28%	48%	35%
地域のイベント企画・運営	19	42%	33%	29%	28%	48%	33%
その他	7	0%	0%	8%	13%	0%	7%

結果から言えること

- 高齢者支援、続いて障害者支援が幅広い年代から認知されている。健康増進活動や災害・防災支援は認知度が低い。
- とくに60代は、社協が幅広いテーマに關与しているイメージを持っている。一方で、40代は全テーマで全体平均を下回っている。20、30代はテーマによる認知度の差が大きい。
- 子育て世代が子育て支援、高齢者が高齢者支援など、当事者が多い年代により強く認識されているという傾向はそれほど見られない。
- 相談業務は全体平均でも44%となっており、コーディネーターの活動をはじめ「どこに行けばよいかわからない相談事は社協へ」というイメージを定着させるためには、また改善の余地があると言える。

## アンケートから読み取れること

#	観点	読み取れること
1	居住年数×ボランティア経験×居住地（都内・それ以外・ALL）	居住年数が5年以下より6年以上の方がボランティア経験が高い傾向が見られた。 一方で、ボランティア経験と居住年数は完全には比例する関係にはなかったため、当該地域への居住年数が短くても、きっかけ作りができれば社会貢献に興味を持つ人を地域のボランティア活動に取り込むことは可能だと考えられる。
2	年代×興味がある分野	ボランティアにおいて「まちづくり」は全世代で関心が高く、特に20代以下では100%が興味がある分野として回答した。 「教育・研究」は子育て世代（30代・40代）の関心が高く、「保健・医療・福祉」は50代以上、「子ども育成」は60代以上で関心が高い分野となっており、年代ごとの関心の違いが見受けられた。
3	年代×ボランティア経験×ボランティアに参加するときのネック（阻害要因）	ボランティア活動における課題として、情報不足が全体で最も多く挙げられ、経験の有無で年代ごとに異なる傾向が見られた。 また、手続きの難しさは未経験者の若年層で、時間の確保は就労世代で大きな課題となっており、これらの改善が参加促進につながると考えられる。
4	年代×N1	プロボノやボランティア活動は、20代以下には成果や達成感を得る場、30代・40代には人とのつながりを深める場、そして、全世代には気づきや学びを得る場となっているため、年代に応じた活動体験を作ることが求められると考えられる。
5	年代×ボランティアに参加してみたいと思う条件	「参加のしやすさ」や、「時間や日程の柔軟性」は、ボランティア経験の有無を問わず、参加したいと思う条件として重視されていた。 また、ボランティア経験ありの場合、「個人の関心やスキルとの適合性」も参加要因となる。
6	年代×ボランティア経験×ボランティアについて訊にする頻度	ボランティアについて訊にする頻度は、ボランティア経験の有無にあまり左右されないと考えられる。
7	年代×社協を知ったきっかけ	社協を知った媒体はほぼつき大きく、特定の手段・媒体への偏りは見られなかった。 地域のイベント参加やプロボノ・ボランティア参加など、実際に地域参加やボランティア参加の行動に移して初めて社協を知る人が多いと考えられる。
8	年代×社協の活動イメージ	「高齢者支援」、続いて「障害者支援」が幅広い年代から認知されている。「健康増進活動」や「災害・防災支援」は認知度が低い。 「相談業務」は全体平均でも44%となっており、コーディネーターの活動をはじめ、「どこに行けばよいかわからない相談事は社協へ」というイメージを定着させるための余の余地があると言える。

おわりに ～感謝と御礼～

以上で我々チームの発表は終了となります。

今回のS A Aの活動を通じて、色々ご協力いただいた、渋谷区社協のコーディネーターの皆様、他地区社協のコーディネーターの皆様、お忙しい中、訪問インタビューを始めとした、我々の活動にご協力いただき、本当にありがとうございました！！

非常に貴重な経験をさせていただき、大変勉強になりました。

これからもお体ご自愛いただきながら、日々の業務頑張ってください！！

# ソーシャルアクションアカデミー2024 活動報告資料について

本資料は、「ソーシャルアクションアカデミー」の参加者である、企業人・NPO職員・学生などのグループが作成した、“ソーシャルアクション”の成果物です。本資料を引用される際は、出典について、以下の例を参考に記載いただきますようお願いいたします。

## 1. 資料のフッタにコピーライトを表示

### 【記載例】

©ソーシャルアクションアカデミー  
©Social Action Academy

## 1. 引用箇所末尾等に資料の出所を表示

### 【記載例】

資料：ソーシャルアクションアカデミー

資料：ソーシャルアクションアカデミー 2024年度活動報告書より

資料：認定NPO法人サービスグラント『ソーシャルアクションアカデミー』2024年度活動報告書より

## お問い合わせ

### 認定NPO法人 サービスグラント（担当：岡本・柴岡）

SAA@servicegrant.or.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10

〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-5-16 淡路町ビル8階

<https://www.servicegrant.or.jp/>

「ソーシャルアクションアカデミー」は、非営利組織とともにリアルな社会課題解決に挑戦する経験と、エキスパートによる講義やフィードバックを通じてビジネススキルを磨くことを両立する機会を提供する、超実践型アクションラーニングプログラムです。認定NPO法人サービスグラントが主催し、企業人、NPO職員、学生など多様なメンバーがグループを組み、協力者の力を得ながら、自発的に企画したアクションに取り組んでいます。